

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuscho-shinkin.jp/>

ALSHIN
BANK

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業安定所管内)		2022/11 1.65 倍	2021/11 1.53 倍	前年同月比 0.12 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	5,760 台	5,547 台	3.84 %
	中古車	1,894 台	2,090 台	-9.38 %
	合計	7,654 台	7,637 台	0.22 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		9~11月 211 件	9~11月 255 件	-17.25 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		46,420 人	39,312 人	18.08 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	287,260 台	279,189 台	2.89 %
	出	274,737 台	269,826 台	1.82 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	289,660 台	283,756 台	2.08 %
	出	300,146 台	292,569 台	2.59 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	138,654 台	132,414 台	4.71 %
	出	137,477 台	130,996 台	4.95 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	246,238 台	245,494 台	0.30 %
	出	250,397 台	249,784 台	0.25 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	69,066 台	67,102 台	2.93 %
	出	66,133 台	61,843 台	6.94 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	193,806 台	194,154 台	-0.18 %
	出	187,754 台	193,240 台	-2.84 %

前期 7 - 9 月 今期 10 - 12 月 来期 1 - 3 月 4 - 6 月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先193社に対し、2022年10月～12月期の景気の現状と2023年1月～3月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は**15.0%**（前期**17.1%**）、悪かったとする企業は**38.2%**（前期**37.1%**）であった。業種別に見ると、良かったとする企業の割合が最も多かったのは**建設業**で**24.4%**（前期**17.5%**）、続いて**小売業**が**17.6%**（前期**9.7%**）、**不動産業**が**16.7%**（前期**0.0%**）、**卸売業**が**14.3%**（前期**22.2%**）の順となった。また、悪かったとする企業が多かった業種は、**小売業**で**52.9%**（前期**54.8%**）、続いて**サービス業**が**50.0%**（前期**56.5%**）、**製造業**が**42.6%**（前期**36.4%**）、**卸売業**が**28.6%**（前期**33.3%**）の順であった。

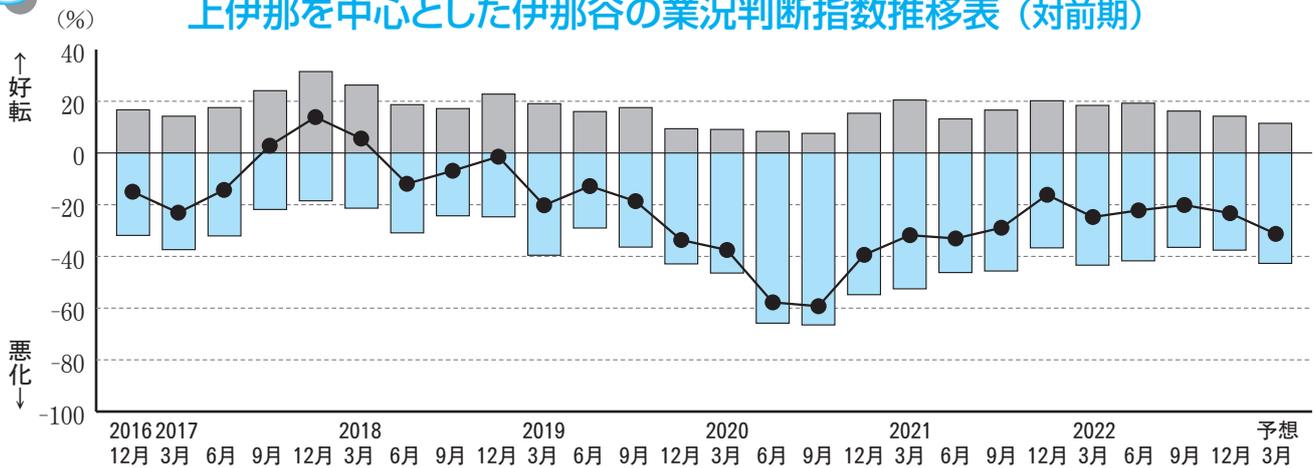
DIを総合的に見ると**▲23.1**（前期**▲20.0**）と**3.1**ポイントの下降で、マイナス幅が拡大している。

業種別にDIを見ると、**建設業**が**7.3**（前期**▲2.5**）で**良好感**が出てきており、**不動産業**は**0.0**（前期**0.0**）で対前期**0.0**と安定しているものの、他の業種においては水面下に停滞しており、**サービス業**においては**▲41.7**（前期**▲39.1**）と**▲2.6**ポイント、**製造業**が**▲32.8**（前期**▲15.2**）で**▲17.6**ポイント、**卸売業**が**▲14.3**（前期**▲11.1**）で**▲3.2**ポイントと低調感を強めているのに対し、水面下においても**小売業**は**▲35.3**（前期**▲45.2**）で**プラス9.9**ポイントと改善の方向に向かう兆しが見える。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は**12.1%**（今期**15.0%**）、悪いと予想する企業は**43.4%**（今期**38.2%**）、DIは**▲31.2**（今期**▲23.1**）で**8.1**ポイント下降し、僅かながら更に悪化する予想となっている。

業種別のDIを見ると、**サービス業**が**▲58.3**（今期**▲41.7**）で**▲16.6**ポイント、**小売業**が**▲44.1**（今期**▲35.3**）で**▲8.8**ポイント、**卸売業**は**▲42.9**（今期**▲14.3**）で**▲28.6**ポイント、**製造業**は**▲34.4**（今期**▲32.8**）で**▲1.6**ポイントで今期を上回る悪化を予想している。唯一、今期プラスであった**建設業**も**▲2.4**（今期**7.3**）で**▲9.7**ポイントと悪化に転じる予想となっている。**不動産業**については**0.0**ポイントで変わらぬ安定予想である。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



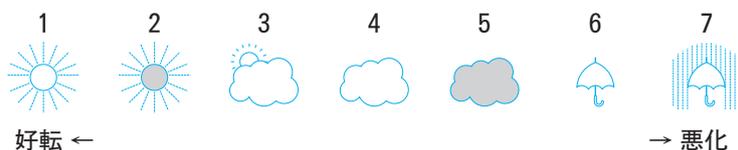
※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	2022年	2022年	2022年	2023年
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期予想
総合		☁	☁	☁	☔
製造業		☁	☁	☔	☔
建設業		☁	☁	☁	☁
卸売業		☁	☁	☁	☔
小売業		☔	☔	☔	☔
サービス業		☔	☔	☔	☔
不動産業		☁	☁	☁	☁



製造業

(調査先企業72社 うち回答企業61社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**9.8%**（前期**21.2%**）、悪かったとする企業は**42.6%**（前期**36.4%**）、DIは**▲32.8**（前期**▲15.2**）で**▲17.6**ポイントと厳しさを増している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲24.6**（前期**▲4.5**）、受注残のDIは**▲31.1**（前期**▲15.4**）、収益のDIは**▲44.3**（前期**▲30.3**）とそれぞれ**▲20.1**ポイント、**▲15.7**ポイント、**▲14.0**ポイントで減少幅は更に拡大している。価格の面では、原材料価格のDIは**▲75.4**（前期**▲78.8**）でプラス3.4ポイントと上昇はやや弱まった。また、販売価格のDIにおいては**19.7**（前期**24.2**）と**▲4.5**ポイントで上昇と答えた企業の割合は減少している。資金繰りのDIは、**▲11.5**（前期**▲10.6**）と**▲0.9**ポイントでやや厳しさを増している。借入れをした企業は**19.7%**（前期**25.8%**）、設備投資の実施をした企業は**52.7%**（前期**48.6%**）であった。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲31.1**（前年同期**19.7**）と**▲50.8**ポイント、収益のDIは**▲52.5**（前年同期**10.6**）と**▲63.1**ポイントでどちらも水面下へ落ち込んだ。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲34.4**（今期**▲32.8**）と1.6ポイント下降で、厳しさを増す予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、売上額のDIは**▲23.3**（今期**▲24.6**）とプラス1.3ポイント、収益のDIについても**▲40.0**（今期**▲44.3**）とプラス4.3ポイントでどちらも減少に歯止めがかかる予想。また、受注残のDIにおいても**▲18.3**（今期**▲31.1**）と12.8ポイント上昇で減少幅が縮小すると予想している。原材料価格のDIは**▲56.7**（今期**▲75.4**）で18.7ポイント上昇は弱まり、販売価格のDIにおいても**13.3**（今期**19.7**）で**▲6.4**ポイントと上昇は弱まる予想である。資金繰りのDIは**▲11.7**（今期**▲11.5**）と窮屈感はやや強まる見通しである。借入れを予定している企業は**16.9%**（今期実施**19.7%**）、設備投資の実施を予定している企業は**44.9%**（今期実施**52.7%**）となっている。

◆DI指数推移

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲6.1	▲18.8	▲17.2	▲15.2	▲32.8	▲34.4	
売 上 額	▲1.5	▲37.5	▲9.4	▲4.5	▲24.6	▲23.3	
受 注 残	▲1.5	▲40.6	▲15.6	▲15.4	▲31.1	▲18.3	
収 益	▲3.0	▲39.1	▲28.1	▲30.3	▲44.3	▲40.0	
販 売 価 格	3.0	10.9	29.7	24.2	19.7	13.3	
原 材 料 価 格	▲68.2	▲67.2	▲85.9	▲78.8	▲75.4	▲56.7	
原 材 料 在 庫	3.0	15.6	10.9	15.2	▲1.6	0.0	
資 金 繰 り	1.5	▲4.7	▲12.5	▲10.6	▲11.5	▲11.7	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	し た	21.2	19.4	18.8	25.8	19.7	16.9
	し ない	78.8	80.6	81.2	74.2	80.3	83.1
借 入 難 易 度	容 易	13.8	7.8	10.9	12.3	8.2	—
	不 変	63.1	68.8	78.1	64.6	72.1	—
	難	7.7	9.4	4.7	10.8	6.6	—
	該 当 な し	15.4	14.0	6.3	12.3	13.1	—

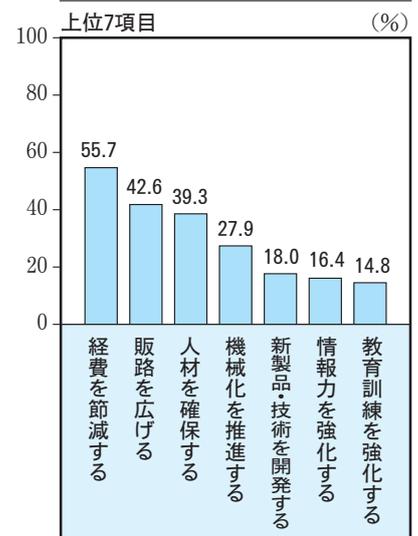
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	し た	44.3	42.0	41.9	48.6	52.7	44.9
	し ない	55.7	58.0	58.1	51.4	47.3	55.1
状 況	過 剰	1.5	3.1	1.6	0.0	3.3	4.9
	適 正	80.0	76.6	81.2	77.3	81.9	77.1
	不 足	18.5	20.3	17.2	22.7	14.8	18.0
D I	▲17.0	▲17.2	▲15.6	▲22.7	▲11.5	▲13.1	

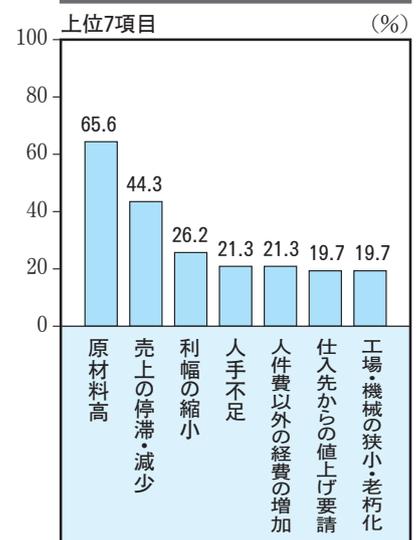
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	40.9	20.3	14.1	15.2	11.5	8.3
	不 変	47.0	64.1	62.5	71.2	70.5	71.7
	減 少	12.1	15.6	23.4	13.6	18.0	20.0
人 手	過 剰	7.6	7.9	6.3	6.1	10.0	11.9
	適 正	51.5	60.4	65.6	57.5	56.7	57.6
	不 足	40.9	31.7	28.1	36.4	33.3	30.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

建設業

(調査先企業43社 うち回答企業41社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**24.4%**（前期**17.5%**）、悪かったとする企業は**17.1%**（前期**20.0%**）で、DIは**7.3**（前期**▲2.5**）と**プラス9.8ポイント**で良好感が出てきている。

各指標別を前期比で見ると、**売上額のDIは▲12.2**（前期**▲15.0**）と**プラス2.8ポイント**と水面下ながら改善傾向が見られるが、**収益のDIでは▲17.1**（前期**▲15.0**）で**2.1ポイント後退**している。**施工高のDIは7.3**（前期**▲5.0**）で**プラス12.3ポイント**で好転、**受注残のDIにおいても▲2.4**（前期**▲7.5**）と**5.1ポイント回復**している。**価格面では、請負価格のDIは4.9**（前期**12.5**）と**▲7.6ポイント**で**上昇傾向は弱まり**、**材料価格のDIは▲80.5**（前期**▲82.5**）で**プラス2.0ポイント**と**上昇したとする企業の割合がやや減少**した。**資金繰りのDIは▲22.0**（前期**▲10.0**）と**▲12.0ポイント**で更に**厳しい状況**となった。**借入れをした企業は27.5%**（前期**35.9%**）、**設備投資の実施をした企業は40.5%**（前期**37.8%**）となっている。

前年同期比で見ると、**売上額のDIは▲17.1**（前年同期**8.3**）と**▲25.4ポイント**で水面下に落ち込み、**収益のDIは▲31.7**（前年同期**▲2.8**）と**▲28.9ポイント**で、**減少幅が拡大**している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、**業況のDIは▲2.4**（今期**7.3**）と**9.7ポイント下降**で、**悪化に転じる**予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額のDIは▲4.9**（今期**▲12.2**）**プラス7.3ポイント**で回復の兆し、**収益のDIは▲14.6**（今期**▲17.1**）と**プラス2.5ポイント**で減少幅は縮小見込であるが、**受注残のDIについては▲4.9**（今期**▲2.4**）と**▲2.5ポイント**で低迷する見通しである。**価格面では、請負価格のDIは2.4**（今期**4.9**）と**▲2.5ポイント**で**上昇傾向は弱まり**、**材料価格のDIにおいても▲73.2**（今期**▲80.5**）と**プラス7.3ポイント**で**上昇傾向は弱まる見通し**である。**資金繰りのDIにおいては▲26.8**（今期**▲22.0**）と**窮屈感は強まる見通し**である。**借入れを予定している企業は25.0%**（今期**実施27.5%**）、**設備投資の実施を予定している企業は28.2%**（今期**実施40.5%**）となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2021年		2022年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業況	11.1	5.1	▲9.5	▲2.5	7.3	▲2.4	
売上額	▲2.8	▲2.6	▲19.0	▲15.0	▲12.2	▲4.9	
受注残	8.6	▲7.7	▲4.8	▲7.5	▲2.4	▲4.9	
収益	▲5.6	▲2.6	▲28.6	▲15.0	▲17.1	▲14.6	
請負価格	2.8	▲7.7	7.1	12.5	4.9	2.4	
材料価格	▲83.3	▲87.2	▲85.7	▲82.5	▲80.5	▲73.2	
在庫	▲2.8	▲5.3	▲9.8	0.0	▲4.9	▲2.4	
資金繰り	▲13.9	▲20.5	7.3	▲10.0	▲22.0	▲26.8	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借入実施	した	40.0	44.7	34.1	35.9	27.5	25.0
	しない	60.0	55.3	65.9	64.1	72.5	75.0
借入難易度	容易	14.7	7.9	7.5	5.1	0.0	-
	不変	70.6	71.1	70.0	71.8	75.0	-
	難	2.9	7.9	7.5	7.7	5.0	-
	該当なし	11.8	13.1	15.0	15.4	20.0	-

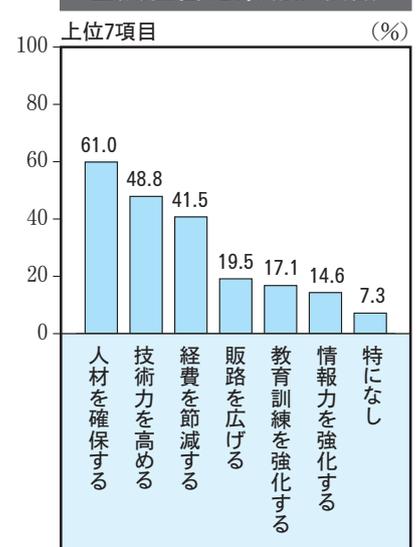
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実施	した	35.1	31.4	41.3	37.8	40.5	28.2
	しない	64.9	68.6	58.7	62.2	59.5	71.8
状況	過剰	0.0	2.6	2.4	2.6	2.4	2.4
	適正	88.9	86.9	90.5	94.8	92.7	95.2
	不足	11.1	10.5	7.1	2.6	4.9	2.4
DI	▲11.1	▲7.9	▲4.7	0.0	▲2.5	0.0	

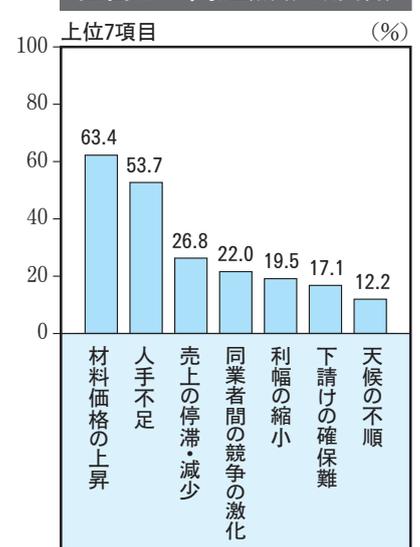
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残業時間	増加	13.9	7.7	4.9	12.5	9.8	12.2
	不変	75.0	69.2	70.7	72.5	80.4	78.0
	減少	11.1	23.1	24.4	15.0	9.8	9.8
人手	過剰	0.0	0.0	4.9	7.5	2.4	6.7
	適正	27.8	53.8	51.2	42.5	34.2	37.7
	不足	72.2	46.2	43.9	50.0	63.4	55.6

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



卸 売 業 (調査先企業8社 うち回答企業7社)

◇今期の業況：今期の業況は、良かったとする企業は14.3%（前期22.2%）、悪かったとする企業は28.6%（前期33.3%）となり、DIも▲14.3（前期▲11.1）と▲3.2ポイントで厳しさはやや強まっている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは28.6（前期▲22.2）とプラス50.8ポイントで好転、収益のDIも0.0（前期▲22.2）とプラス22.2ポイントで改善傾向となった。販売価格のDIは57.1（前期44.4）とプラス12.7ポイントで上昇傾向は強まり、仕入価格のDIについても▲57.1（前期▲55.6）と▲1.5ポイントで上昇傾向は強まった。資金繰りのDIは0.0（前期11.1）で容易と答えた企業の割合は11.1ポイント減少した。借入れをした企業は14.3%（前期11.1%）、設備投資の実施をした企業は37.5%（前期33.3%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは0.0（前年同期▲12.5）で回復の兆し、収益のDIにおいても▲28.6（前年同期0.0）で減少に転じた。

◇来期の見通し：来期の見通しについては、業況のDIは▲42.9（今期▲14.3）と▲28.6ポイントで深刻さを増す予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲42.9（今期28.6）で▲71.5ポイント、収益のDIにおいても▲28.6（今期0.0）で▲28.6ポイントといずれも減少に転じる見通しである。価格面をみると、販売価格のDIは42.9（今期57.1）と上昇は弱まるものの落ち着きを見せ、仕入価格のDIにおいても▲42.9（今期▲57.1）と上昇はやや緩和する予想である。資金繰りのDIは0.0（今期0.0）と変わらない予想である。借入れを予定している企業は14.3%（今期実施14.3%）、設備投資の実施を予定している企業は42.9%（今期実施37.5%）となっている。

◆DI指数推移

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲37.5	▲55.6	▲12.5	▲11.1	▲14.3	▲42.9	
売 上 額	▲12.5	▲55.6	37.5	▲22.2	28.6	▲42.9	
収 益	12.5	▲44.4	37.5	▲22.2	0.0	▲28.6	
販 売 価 格	50.0	77.8	62.5	44.4	57.1	42.9	
仕 入 価 格	▲87.5	▲77.8	▲87.5	▲55.6	▲57.1	▲42.9	
在 庫	0.0	11.1	▲12.5	▲11.1	0.0	0.0	
資 金 繰 り	12.5	▲11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	し た	25.0	33.3	25.0	11.1	14.3	14.3
	し ない	75.0	66.7	75.0	88.9	85.7	85.7
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	—
	不 変	62.5	66.7	50.0	66.7	71.4	—
	難	12.5	11.1	12.5	0.0	0.0	—
	該 当 な し	25.0	22.2	25.0	33.3	28.6	—

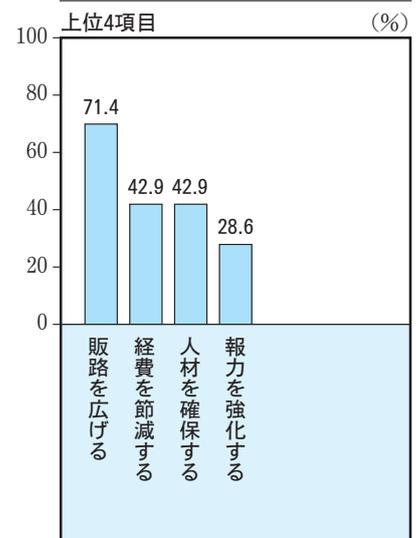
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	し た	25.0	22.2	0.0	33.3	37.5	42.9
	し ない	75.0	77.8	100.0	66.7	62.5	57.1
状 況	過 剰	0.0	11.1	12.5	0.0	0.0	0.0
	適 正	100.0	88.9	87.5	77.8	85.7	85.7
	不 足	0.0	0.0	0.0	22.2	14.3	14.3
DI	0.0	11.1	12.5	▲22.2	▲14.3	▲14.3	

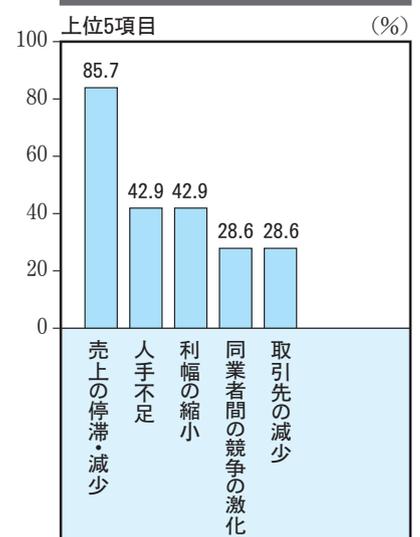
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	25.0	11.1	12.5	11.1	28.6	14.3
	不 変	75.0	77.8	87.5	77.8	57.1	57.1
	減 少	0.0	11.1	0.0	11.1	14.3	28.6
人 手	過 剰	12.5	11.1	0.0	22.2	0.0	14.3
	適 正	75.0	77.8	100.0	77.8	85.7	71.4
	不 足	12.5	11.1	0.0	0.0	14.3	14.3

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

小 売 業 (調査先企業37社 うち回答企業34社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**17.6%**（前期**9.7%**）、悪かったとする企業は**52.9%**（前期**54.8%**）、DIは**▲35.3**（前期**▲45.2**）とプラス**9.9**ポイントで水面下ながら上向き傾向。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**20.6**（前期**▲21.9**）とプラス**42.5**ポイント、**収益**のDIは**14.7**（前期**▲46.9**）とプラス**61.6**ポイントでどちらも水面下を脱して増加に転じている。**販売価格**のDIは**50.0**（前期**21.9**）とプラス**28.1**ポイントで上昇幅が拡大したが、**仕入価格**のDIにおいては**▲58.8**（前期**▲37.5**）と**▲21.3**ポイントで価格が上昇したとする企業の割合は増加した。**資金繰り**のDIは**▲8.8**（前期**▲34.4**）とプラス**25.6**ポイントで窮屈感は弱まった。**借入れ**をした企業は**17.6%**（前期**15.6%**）、**設備投資の実施**をした企業は**9.4%**（前期**10.7%**）となっている。

これを前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲11.8**（前年同期**10.0**）と**▲21.8**ポイントで増加から減少に転じ、**収益**のDIは**▲26.5**（前年同期**▲26.7**）と変わらず低迷している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲44.1**（今期**▲35.3**）と**▲8.8**ポイントで悪化は強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、**売上額**のDIは**▲17.6**（今期**20.6**）と**▲38.2**ポイント、**収益**のDIは**▲17.6**（今期**14.7**）と**▲32.3**ポイントでどちらも増加から減少に転じる見通しである。**販売価格**のDIは**35.3**（今期**50.0**）と上昇が弱まり、**仕入価格**のDIにおいても**▲50.0**（今期**▲58.8**）とプラス**8.8**で上昇はやや弱まる見通しである。**資金繰り**のDIは**▲8.8**（今期**▲8.8**）と窮屈感変わらない予想となった。**借入れ**を予定している企業は**8.8%**（今期**17.6%**）、**設備投資の実施**を予定している企業は**15.6%**（今期**9.4%**）となっている。

◆DI指数推移

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲40.0	▲34.4	▲33.3	▲45.2	▲35.3	▲44.1	
売 上 額	30.0	▲29.0	▲3.0	▲21.9	20.6	▲17.6	
収 益	13.3	▲54.8	▲27.3	▲46.9	14.7	▲17.6	
販 売 価 格	37.9	6.5	30.3	21.9	50.0	35.3	
仕 入 価 格	▲63.3	▲63.3	▲54.5	▲37.5	▲58.8	▲50.0	
在 庫	3.3	▲3.2	12.1	3.2	11.8	2.9	
資 金 繰 り	▲10.0	▲16.1	▲12.1	▲34.4	▲8.8	▲8.8	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	6.9	18.8	12.5	15.6	17.6	8.8
	しない	93.1	81.2	87.5	84.4	82.4	91.2
借 入 難 易 度	容 易	14.3	10.0	9.7	13.3	9.1	—
	不 変	57.1	60.0	54.8	46.7	60.6	—
	難	14.3	10.0	19.4	16.7	15.2	—
	該当なし	14.3	20.0	16.1	23.3	15.1	—

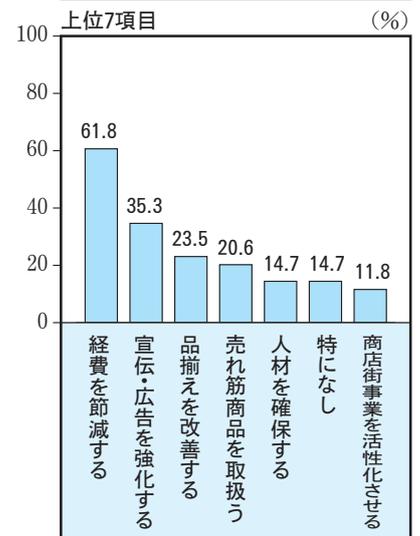
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	した	32.1	7.1	24.0	10.7	9.4	15.6
	しない	67.9	92.9	76.0	89.3	90.6	84.4
状 況	過 剰	3.3	16.1	9.4	9.7	8.8	8.8
	適 正	83.4	61.3	81.2	80.6	76.5	73.6
	不 足	13.3	22.6	9.4	9.7	14.7	17.6
DI	▲10.0	▲6.5	0.0	0.0	▲5.9	▲8.8	

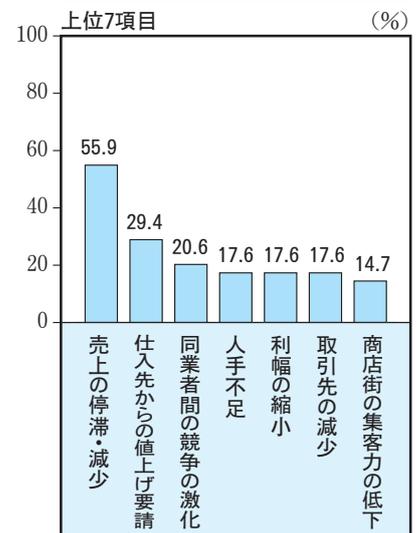
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	10.0	3.1	6.1	9.4	6.1	9.1
	不 変	83.3	84.4	87.8	78.1	78.7	81.8
	減 少	6.7	12.5	6.1	12.5	15.2	9.1
人 手	過 剰	3.3	12.5	3.0	6.3	3.0	3.0
	適 正	63.4	59.4	66.7	68.7	60.6	63.7
	不 足	33.3	28.1	30.3	25.0	36.4	33.3

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



サービス業

(調査先企業27社 うち回答企業24社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**8.3%**（前期**17.4%**）、悪かったとする企業は**50.0%**（前期**56.5%**）、DIは**▲41.7**（前期**▲39.1**）で**▲2.6**ポイントとやや厳しさを増している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲16.7**（前期**16.7**）で**▲33.4**ポイント、収益のDIにおいても**▲8.3**（前期**4.2**）で**▲12.5**ポイントとどちらも増加から減少に転じた。料金価格のDIは**37.5**（前期**16.7**）で**プラス20.8**ポイントと上昇傾向を強め、仕入価格のDIでも**▲75.0**（前期**▲70.8**）と**▲4.2**ポイントで上昇幅は拡大している。資金繰りのDIは**▲33.3**（前期**▲16.7**）と**▲16.6**ポイントで窮屈感が強まっている。借入れをした企業は**8.7%**（前期**12.5%**）、設備投資の実施をした企業は**27.3%**（前期**32.0%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲4.2**（前年同期**12.5**）と**▲16.7**ポイント、収益のDIも**▲12.5**（前年同期**12.5**）で**▲25.0**ポイントとどちらも水面下に落ち込んでいる。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲58.3**（今期**▲41.7**）と**▲16.6**ポイントと深刻さを増す予想となっている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲33.3**（今期**▲16.7**）と**▲16.6**ポイント、収益のDIにおいては**▲37.5**（今期**▲8.3**）と**▲29.2**ポイントで、いずれも減少を強める見通しである。仕入価格のDIは**▲62.5**（今期**▲75.0**）と**プラス12.5**ポイントで上昇は弱まり、料金価格のDIも**8.3**（今期**37.5**）と**▲29.2**ポイントで上昇が弱まる見通しである。資金繰りのDIは**▲33.3**（今期**▲33.3**）と窮屈感に変化はない予想となった。借入れを予定している企業は**22.7%**（今期実施**8.7%**）、設備投資の実施を予定している企業は**25.0%**（今期実施**27.3%**）となっている。

◆DI指数推移

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	▲50.0	▲85.7	▲54.2	▲39.1	▲41.7	▲58.3	
売 上 額	▲16.7	▲76.2	8.3	16.7	▲16.7	▲33.3	
収 益	▲8.3	▲66.7	0.0	4.2	▲8.3	▲37.5	
料 金 価 格	4.2	▲4.8	25.0	16.7	37.5	8.3	
材 料 価 格	▲54.2	▲57.1	▲87.5	▲70.8	▲75.0	▲62.5	
資 金 繰 り	▲20.8	▲38.1	▲16.7	▲16.7	▲33.3	▲33.3	

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	し た	16.7	10.0	16.7	12.5	8.7	22.7
	し ない	83.3	90.0	83.3	87.5	91.3	77.3
借 入 難 易 度	容 易	4.3	0.0	4.3	4.2	4.5	—
	不 変	69.6	60.0	65.2	58.3	63.6	—
	難	8.7	20.0	8.7	16.7	18.2	—
	該 当 なし	17.4	20.0	21.8	20.8	13.7	—

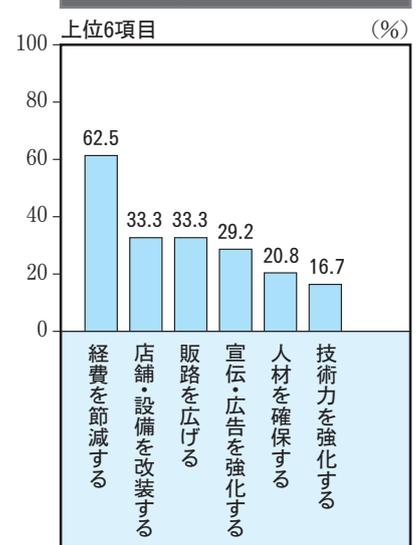
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
実 施	し た	13.0	10.0	25.0	32.0	27.3	25.0
	し ない	87.0	90.0	75.0	68.0	72.7	75.0
状 況	過 剰	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0
	適 正	78.3	78.9	65.3	66.7	78.3	73.9
	不 足	21.7	21.1	30.4	33.3	21.7	26.1
DI	▲21.7	▲21.1	▲26.1	▲33.3	▲21.7	▲26.1	

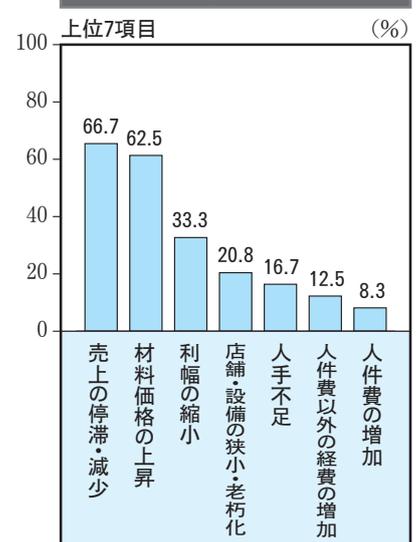
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 時 間	増 加	13.0	0.0	9.1	16.7	21.7	8.7
	不 変	69.6	73.7	77.3	75.0	69.6	78.3
	減 少	17.4	26.3	13.6	8.3	8.7	13.0
人 手	過 剰	8.3	14.3	4.2	4.2	4.2	8.3
	適 正	62.5	61.9	62.5	50.0	45.8	54.2
	不 足	29.2	23.8	33.3	45.8	50.0	37.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業6社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**16.7%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**16.7%**（前期**0.0%**）で、DIは**0.0**（前期**0.0**）と前期と変わらない業況感となった。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**0.0**（前期**▲16.7**）、収益のDIは**0.0**（前期**0.0**）でいずれも安定した推移をしている。価格面においては、販売価格のDIは**50.0**（前期**33.3**）と**16.7**ポイント上昇傾向を強め、仕入価格のDIは**▲16.7**（前期**▲50.0**）とプラス**33.3**ポイントで仕入価格の上昇は弱まっている。資金繰りのDIは、**0.0**（前期**0.0**）で窮屈感無く安定している。借入れをした企業は**50.0%**（前期**33.3%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**50.0**（前年同期**20.0**）とプラス**30.0**ポイントで増加傾向を強め、収益のDIも**33.3**（前年同期**0.0**）とプラス**33.3**ポイントで好転している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは**0.0**（今期**0.0**）と変わらず安定を予想。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**0.0**（今期**0.0**）、収益のDIも**0.0**（今期**0.0**）でどちらも変わらず安定の見通しである。販売価格のDIは**50.0**（今期**50.0**）と安定、仕入価格のDIにおいては**▲16.7**（今期**▲16.7**）で上昇する見通しと答えた企業の割合は変わらなかった。資金繰りのDIは**0.0**（今期**0.0**）と引続き安定する見通しである。借入れを予定している企業は**50.0%**（今期実施**50.0%**）となっている。

◆DI指数推移

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
業 況	0.0	40.0	16.7	0.0	0.0	0.0	
売 上 額	0.0	40.0	▲16.7	▲16.7	0.0	0.0	
収 益	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
販 売 価 格	40.0	20.0	33.3	33.3	50.0	50.0	
仕 入 価 格	▲60.0	▲20.0	▲33.3	▲50.0	▲16.7	▲16.7	
在 庫	20.0	▲20.0	▲33.3	▲50.0	▲16.7	▲33.3	
資 金 繰 り	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

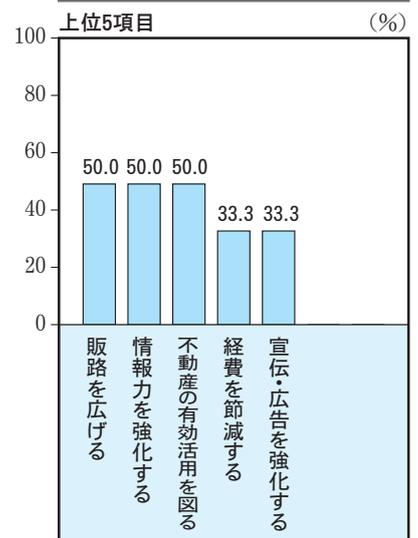
◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
借 入 実 施	した	40.0	40.0	50.0	33.3	50.0	50.0
	しない	60.0	60.0	50.0	66.7	50.0	50.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	100.0	80.0	100.0	83.3	83.3	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該当なし	0.0	20.0	0.0	16.7	16.7	—

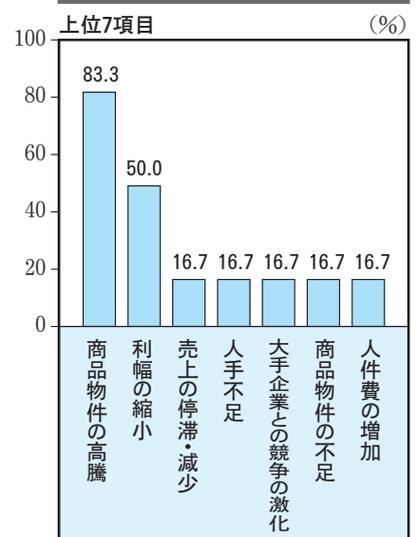
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合)

	2021年		2022年				予 想
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
残 業 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	100.0	100.0	83.3	100.0	83.3	100.0
	減 少	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	100.0	100.0	66.7	66.7	83.3	66.7
	不 足	0.0	0.0	33.3	33.3	16.7	33.3

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



特別調査 2023年(令和5年)の経営見通し

問1 貴社では、2023年の日本の景気をどのように見通していますか。

総合的に見ると、「やや悪い」と回答した企業が最も多く全体の57.8%、続いて「普通」が19.7%、「悪い」が15.6%、「やや良い」が4.6%、「非常に悪い」が1.7%、「良い」が0.6%、という結果であった。良い方向の見通しは合わせて5.2%、悪い方向の見通しは合わせて75.1%、という結果となった。また、「非常に良い」の回答は無かった。

業種別に見ても全ての業種で「やや悪い」の回答が最も多い回答であった。その業種ごとの割合は、不動産業が83.3%、建設業が80.5%、卸売業が71.4%、小売業が52.9%、製造業が45.9%、サービス業が45.8%であった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	0.6	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0
3. やや良い	4.6	6.6	0.0	14.3	5.9	4.2	0.0
4. 普通	19.7	26.2	17.1	14.3	11.8	20.8	16.7
5. やや悪い	57.8	45.9	80.5	71.4	52.9	45.8	83.3
6. 悪い	15.6	18.0	2.4	0.0	23.5	29.2	0.0
7. 非常に悪い	1.7	3.3	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0

問2 貴社では、2023年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。

総合的に見ると、「普通」と回答した企業が最も多く全体の37.6%、続いて「やや悪い」が37.0%、「悪い」が12.7%、「やや良い」が8.7%、「良い」が2.3%、「非常に悪い」が1.7%、という結果であった。良い方向の見通しは合わせて11.0%、悪い方向の見通しは合わせて51.4%、という結果となった。また、「非常に良い」の回答は無かった。

業種別に見ると「普通」の回答が最も多かった業種は不動産業が66.7%、卸売業が57.1%、建設業が51.2%、「やや悪い」の回答が最も多かった業種は製造業が41.0%、小売業が38.2%、サービス業は「普通」と「やや悪い」の回答が同率で33.3%であった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 非常に良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 良い	2.3	3.3	2.4	0.0	2.9	0.0	0.0
3. やや良い	8.7	6.6	4.9	0.0	14.7	8.3	33.3
4. 普通	37.6	32.8	51.2	57.1	23.5	33.3	66.7
5. やや悪い	37.0	41.0	36.6	42.9	38.2	33.3	0.0
6. 悪い	12.7	13.1	4.9	0.0	17.6	25.0	0.0
7. 非常に悪い	1.7	3.3	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0

問3 2023年において貴社の売上額の伸び率は、2022年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

総合的に見ると、「変わらない」とした企業が最も多く40.5%、続いて「10%未満の減少」が18.5%、「10%未満の増加」と「10%~19%の減少」が13.9%、「10%~19%の増加」と「20%~29%の減少」が5.2%、「30%以上の増加」が1.7%、「30%以上の減少」が1.2%という結果であった。また、「20%~29%の増加」の回答は無かった。「増加」の回答は合せて20.8%、「減少」の回答は合せて38.8%であった。

業種別に見ても全ての業種で「変わらない」の回答が最も多い回答であった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 30%以上の増加	1.7	0.0	2.4	0.0	0.0	4.2	16.7
2. 20~29%の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 10~19%の増加	5.2	4.9	0.0	0.0	8.8	12.5	0.0
4. 10%未満の増加	13.9	14.8	7.3	14.3	20.6	8.3	33.3
5. 変わらない	40.5	27.9	58.5	57.1	35.3	45.8	33.3
6. 10%未満の減少	18.5	26.2	12.2	28.6	11.8	16.7	16.7
7. 10~19%の減少	13.9	16.4	12.2	0.0	17.6	12.5	0.0
8. 20~29%の減少	5.2	8.2	7.3	0.0	2.9	0.0	0.0
9. 30%以上の減少	1.2	1.6	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0

問4 貴社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。

総合的に見ると「業況改善の見通しは立たない」が最も多く27.5%、続いて「1年後」が17.5%、「2年後」が16.4%、「すでに上向いている」が12.3%、「6か月以内」が11.1%、「3年後」が9.9%、「3年超」が5.3%の順であった。

業種別に見ると、「業況改善の見通しは立たない」が最も多かった業種は、小売業が50.0%、サービス業が33.3%、建設業が23.1%であった。製造業では「1年後」の回答が最も多く29.5%、卸売業は「2年後」の回答が最も多く42.9%、不動産業では「6か月以内」と「2年後」が同率回答で33.3%であった。

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1.すでに上向いている	12.3	13.1	20.5	0.0	5.9	8.3	16.7
2.6か月以内	11.1	11.5	10.3	14.3	8.8	8.3	33.3
3.1年後	17.5	29.5	10.3	14.3	14.7	8.3	0.0
4.2年後	16.4	14.8	20.5	42.9	8.8	12.5	33.3
5.3年後	9.9	3.3	15.4	0.0	5.9	25.0	16.7
6.3年超	5.3	9.8	0.0	0.0	5.9	4.2	0.0
7.業況改善の見通しは立たない	27.5	18.0	23.1	28.6	50.0	33.3	0.0

問5 2023年の事業環境を展望したとき、貴社にとっての経営リスクは何ですか。

総合的に見ると「原材料・仕入価格のさらなる高騰」の回答が最も多く35.6%、続いて「原油・天然ガス等のエネルギー価格高騰」が22.2%、「コロナなど感染症の感染再拡大」が13.8%、「円安・インフレの加速」が6.9%、「ロシア・ウクライナを含む海外情勢の緊迫化」が6.7%の順となった。「その他」の回答では「人材不足」「高齢化」「新規事業参入・早期立上げ」「コロナによる社会の変化」などがあつた。

業種別に見ても全ての業種で「原材料・仕入価格のさらなる高騰」の回答が最も多い回答であった。(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1.原材料・仕入価格のさらなる高騰	35.6	35.1	41.3	31.3	31.6	37.5	21.4
2.原油・天然ガス等のエネルギー価格高騰	22.2	27.7	22.8	6.3	19.0	16.1	21.4
3.コロナなど感染症の感染再拡大	13.8	10.8	10.9	18.8	15.2	23.2	14.3
4.ロシア・ウクライナを含む海外情勢の緊迫化	6.7	11.5	4.3	0.0	2.5	3.6	14.3
5.台風・豪雨・地震・噴火などの自然災害	2.2	0.0	5.4	0.0	0.0	3.6	14.3
6.取引先廃業等による売上げ激減	4.7	2.7	2.2	12.5	11.4	3.6	0.0
7.経営者や従業員の健康問題	3.2	0.7	4.3	0.0	6.3	5.4	0.0
8.コロナ融資の返済	3.5	2.7	2.2	12.5	3.8	5.4	0.0
9.円安・インフレの加速	6.9	7.4	6.5	18.8	6.3	1.8	14.3
10.その他	1.2	1.4	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0

フリーローンあるプラス

お使いみち自由 お手続きカンタン **1,000円** (1万円単位) **最長10年** アルバイトパートの方もOK! **年3.5%~年14.0%**



業種	ご利用の一例
家庭家電	結婚費用(挙式・挙式)
カメラ	入学・高卒・就職祝い
高級雑貨	墓地・墓石
旅行	旅行・法事費用
介護	療養・介護
ペット	ペット用品

ローン残高	A社	B社	C社
お借入利率(年率)	14.5%	12.3%	14.6%
返済期間	5年	5年	5年
ご返済日	毎月25日	毎月15日	毎月10日
毎月のご返済額	35,292円	22,396円	11,790円

ご利用いただける方	※お申込み時年齢が20歳以上、完済時76歳未満の方 ※安定継続した収入のある方(年収100万円以上) ※金融機関等信用情報にお借入れがない方 ※保証会社(オリックス・クレジット株式会社)の保証が受けられる方
お使いみち	自由(但し、事業性資金は除く)
ご融資金額	10万円以上1,000万円以下(1万円単位) 但し、専業主婦の方は50万円単位
ご融資期間	6か月以上10年以内(1か月単位)
ご融資利率(固定金利)	年3.5%、年5.0%、年6.5%、年8.0%、年9.5%、年11.0%、年12.5%、年14.0%の8パターン(保証料含む) ※ご融資期間が10年以上の場合はお問い合わせください。
ご返済方式	毎月元利均等返済方式(元金の0%まで残2回から月々のボーナス返済可)
前借証提出条件	借入金額が300万円を超える場合はご提出いただけます。300万円以下は原則不要となります。但し、審査上必要と判断した場合はご提出いただけます。
保証会社	オリックス・クレジット株式会社 ※保証・保証人は不要です。
その他	審査の結果によってはご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お申し込み受付方法

お借入希望店舗でお申込みを受け付けいたします。FAX・インターネット・QRコードからも仮審査のお申込みができます。

電話(個人ローンのご相談) お気軽にご相談ください。

ローン専用フリーダイヤル **0120-173017** 平日(12/31~1/3を除く)午前9時~午後5時

店頭窓口 **平日9:00~15:00**
お申込み | 審査結果のご連絡 | ご契約 | ご利用開始

インターネット ※当店舗ホームページからアクセスしていただくインターネットで審査結果の申込みを受け付けいたします。 ※正式お申込みのお手続きは店舗へご来店いただきます。

アルプス中央信用金庫 有るプラス 検索
<http://www.alupuschoo-shinkin.jp/kojin/kariru/aluplus.html>

仮審査お申込み | 審査結果のご連絡 | 正式お申込み | ご契約 | ご利用開始

携帯・スマートフォンの方はこちらから